

〔研究ノート〕

三岡八郎宛ウィリアム・エリオット・グリフィス書状再考

膽 吹 覚

私稿「福井大学総合図書館新収蔵品、ウィリアム・エリオット・グリフィス書状——グリフィスの師範学校創設に関する提言について——」（『福井大学教育地域科学部紀要』（社会科学）第2号 15～23 頁、2012 年 1 月刊）に対して、山下英一氏より暦に関する誤認があるところのご教示をいただいた。そこで、過ちては即ち改むるに憚ることなかれとの先人の言に従い、ここに前稿の修正点を記す。

前稿に紹介したグリフィス書状の書誌ならびに翻刻文に修正点はない。ゆえに、その書状を本稿に再度引用することは省略する。グリフィスの書状の宛先は三岡八郎（由利公正）で、その日付は明治 4 年「八月十日」（1871 年 9 月 24 日）である。

前稿ではグリフィスの日記の 1871 年 8 月 10 日（明治 4 年 6 月 24 日）の記事に基づいて、この日に書かれた 12 通の書状の中の 1 通であろうと推定した。筆者は愚かにも和暦の日付をそのままグリフィスの日記に適應したのである。グリフィスの日記はもちろん、西暦で書かれている。

今、あらためてグリフィスの日記を見ると、本稿で考察している書状が書かれた日付である 1871 年 9 月 24 日（明治 4 年 8 月 10 日）の条には書状に関する記事は見られないが、その前日である同月 23 日（8 月 9 日）の条に、「Lecture on Mercury continued to-day, room crowded to its full. Afternoon, busy in rearranging case, labelling &, glorious weather and a queenly night. Matsouri at New Fukuwi continued. Several thousand people visited the house to-day. Country & towns people, refreshment-venders did a thriving business. Evening, wrote letter to Yedo officials.」の記述がある。この記事の末尾にみえる「wrote letter to Yedo officials」が、グリフィスが三岡に宛てた書状ではなかったろうか。ただし、当時のグリフィスの日本語能力から判断するならば、この時の書状は英文で書かれていたはずである。すなわち、1871 年 9 月 23 日（明治 4 年 8 月 9 日）の夜、グリフィスは東京の三岡八郎（由利公正）に宛てて、英文で「チャーチャルス・トレーニング・スクール」（師範学校）創設に関する意見を綴り、翌 24 日（8 月 10 日）、その書状をグリフィスの側近の人が和文に翻訳し浄書したのではないかと私は推測している。

本学所蔵のグリフィスの三岡八郎宛の書状の追伸には「私義明十一日新宅江引移申候」とある。この「明十一日」（明治 4 年 8 月 11 日）は西暦では 1871 年 9 月 25 日となる。グリフィスの日記の 1871 年 9 月 25 日の条には、「Was up before six o'clock. To-day, and began moving into the new houses, vacated the old premises at 8.30, and by 3 P.M. was comfortably installed in my new quarters, new study table, dresser, dining-table &. Tired at evening, so after reading a little, I retired at 9 o'clock.」とあり、書状の記事と一致する。また、グリフィスの書状の追伸には「白山之高八九千二百三十尺ニ御座候、不二山とも余程低く御座候」と記されている。グリフィスの日記によ

ると、彼はこの年の夏休み、1871年8月21日から同月27日にかけて、一行6名で白山登山をしている。そして、福井に戻ったグリフィスは同月28日付の姉マギー宛の書簡に白山登山の様子を詳しく綴っている。その中に「I secured a sheltered place among the rock, and by the aid of a blanket, boiled water and tested its boiling point; it boiled at 195, which makes the height of Hakusan about 9230 feet, a little more than two-thirds the height of Fsiyama.」との記述があり、これもまたグリフィス書状の記述と一致する。

このようにグリフィス書状に記された「八月十日」（明治4年8月10日）という日付を西暦の1871年9月24日に置き換えて、その書状とグリフィスの日記や書簡とを照合するならば、両者の記述に齟齬は見られない。ゆえに、本稿で考察しているグリフィス書状の成立はその書状に記された日付、明治4年8月10日（1871年9月24日）と見て間違いないであろう。なお、由利公正からグリフィスへの返信であるが、こちらもその書誌ならびに翻刻文に修正点はない。また、その日付が明治4年（1871）「十月十日」（1871年11月22日）であることも変更はない。

最後に、本学所蔵のグリフィス書状について、和暦と西暦を併記して、その成立の経緯を整理しておきたい。明治4年8月9日（1871年9月23日）の夜、グリフィスは東京の三岡八郎（由利公正）に宛てて、「チーチャルス・トレーニング・スクール」（師範学校）創設に関する私見を述べた書簡を書いた。この時の書簡は英文であったと推定される。翌10日（24日）、グリフィスの側近の人がグリフィスの書簡を和文に翻訳し、浄書した。これが本学所蔵のグリフィス書状である。その後、由利は同年10月10日（1871年11月22日）付で、グリフィスの意見に賛成の立場を示し、本件を大木喬文部卿へ進言したいとの旨を記した書簡を、福井のグリフィスに返送したのである。

以上、山下氏のご教示に基づいて前稿の修正点を述べた。なお、本学所蔵のグリフィス書状がグリフィスの伝記研究に新たな一面を提供する資料であり、かつ日本教員養成史研究に於ける貴重な史料であるという筆者の評価は、前稿に述べた通りであり、変更はない。

〈付記〉

本稿に於けるグリフィスの日記の引用は、山下英一『グリフィスと福井』（増補改訂版、エクシード、2013年3月刊）に拠った。また、グリフィスの書簡の引用は、同上『グリフィス福井書簡』（シナジー、2009年6月刊）に拠った。末筆ながら、ご多用の中、ご教示いただいた山下英一先生にお礼申し上げます。